Microsoft

Office 365

いつでもどこでも、
あなたらしい働き方を。

Office 365

業務効率向上に役立つオールインワン クラウド サービス

Office 365 ProPlus　Office 365 Business
Project Pro for Office 365　Visio Pro for Office 365

- クラウド化した Office
- 最新版 Office アプリケーションを利用可能
- 1 人で、15 台のデバイスを使い分け

▶▶ P4

SharePoint Online
- 保存先はクラウド ストレージへ
- 個人用作業領域とチーム サイト
- 無駄、手戻りを最小化する文書管理

▶▶ P8

Exchange Online
- 50GB の大容量メールボックス
- 効率よく、適切に仕事を遂行するための利便性
- Office と密に連携

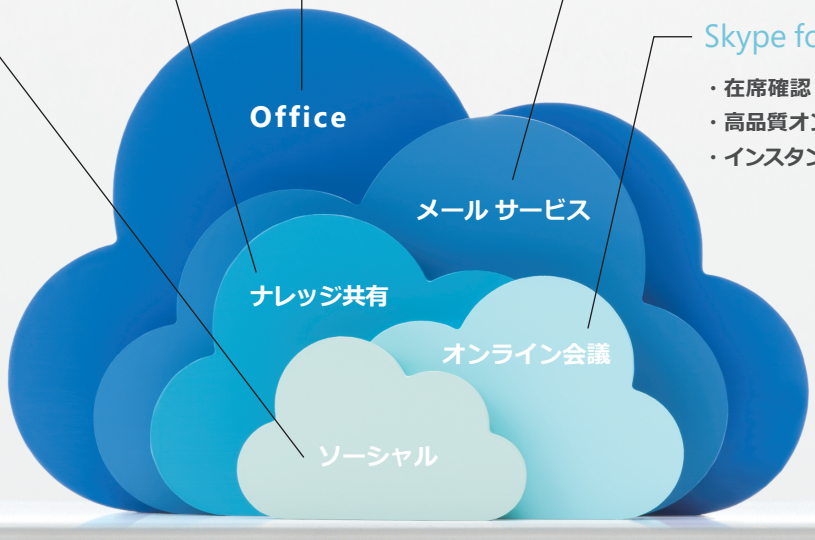
▶▶ P6

Yammer
- マイクロ ブログ
- タグ付けによる整理
- SharePoint との連携

▶▶ P12

Skype for Business Online
- 在席確認 (プレゼンス) 機能
- 高品質オンライン会議
- インスタント メッセージ （チャット）

▶▶ P10



クラウド利用を前提とした設計手法と仮想化技術

Office 365 は、クラウドを利用することを前提として設計されています。データの保存先をクラウドにすれば、たとえば、社外ビジネス パートナーとのコミュニケーションの活性化と簡素化、グループ ワークの効率化と無駄の排除、変化の早い IT 環境への対応など、さまざまなメリットが享受できます。また、提供される Office アプリケーションは仮想化されており、これまでの Office とは利用できるアプリケーションこそ同じであるものの、ベースの考え方は全く異なります。常に最新版の Office が配信され、クラウド サービスの名にふさわしい機能を備えています。

業務の起点。ビジネスの基盤。あなたの毎日に、Office 365。

今日のビジネスは、もはやクラウドなしには語れません。もちろん、あなたのオフィスも。マイクロソフトの Office 365 は、すべてがクラウドを前提に設計され、Word や Excel、メールや情報共有、オンライン会議などの機能が集約されています。仕事に必要なものは、クラウド上に揃いました。必要なときに、必要な場所から、必要なデバイスで。Office 365 から、あなたのビジネスが始まります。

マルチ デバイスに対応

移動中はスマートフォン。会社では PC。自宅では Mac。Office 365 は、あなたが一日で手にするさまざまなデバイスから、ドキュメントの閲覧や編集、メール、情報共有などが行えます。

災害や事故に強い、安全で安心な環境

万一の災害や事故の場合でも、マイクロソフトがデータセンターを運営しているため、あなたのデータは失われることがありません。デバイスさえあれば、すぐに業務を継続できます。

さまざまなワーク スタイルを支援

クラウド サービスである Office 365 を利用すれば、あなたのいるその場所がオフィスになります。お客様先への外出中をはじめ、在宅勤務や育児、介護中でも、普段どおりに仕事を進められます。

IT 管理の手間を大幅に削減

Office 365 のアプリケーションは、クラウドを通じて最新版に自動アップデート。システム管理者が行うバージョンアップやセキュリティ更新プログラムの適応など、煩雑な IT 管理の手間を削減します。

さまざまなコストの削減

クラウド サービスのメリットは初期導入コストや維持管理、保守などに関連するコストを抑え、管理者の作業負荷を抑える点にあります。それに加えて、出張費の削減や事業継続 (BCP) に係る費用、時にライセンス費用も削減することが可能です。

マイクロソフトの安全で安心なクラウド サービス

お客様のデータは、万一の障害発生から保護するために、シンガポールや香港など遠隔地のデータ センターに格納され、冗長化を図っています。データセンターの稼働率は 99.9%を保証します。もしその数値を下回った場合は利用料を返金する制度も整備しています。また、世界標準の規格にも対応するなど、第三者機関の認定制度を継続的に取得し続け、信頼性の確保に努めています※。さらに、お客様のデータは、お客様に属するものとして大切に保管するため、マイクロソフトのコンシューマー サービス (Outlook.com. OneDrive など) とはデータ センターを分けて管理。お客様のデータをマイクロソフトが他の目的で勝手に覗いたり利用したりすることは一切ないことを明文化するなど、プライバシーの保護対策も行っています。

※ ISO27001 (運用管理や情報資産の保護に対する情報セキュリティ管理システムの標準規格)、SAS70 Type II (顧客に属するデータの運用と処理に関しての制御と安全策に対する認証)、HIPPA (アメリカの医療機関における患者情報の取扱いに関する法律)、FISMA (連邦情報セキュリティ マネジメント法)、EU Model Clauses (EU および欧州経済地域以外の国への個人情報移送に関するモデル契約条項) を取得しています。

“ クイック実行 ” により 2 - 3 分で利用可能

クラウド化した Office のインストールは、“ クイック実行 ”。コンポーネント単位でストリーミング配信されるため、わずか 2 - 3 分で利用が始められます。また、従来の IT 管理者による配信もサポート。グループ ポリシーやシステム面から Office のインストールや設定方法を統合的に管理するなど、柔軟な展開計画を立てられます。Office アプリケーションをインストールすれば、従来通りオフラインで利用できるので、どんな場所でも安心してご利用いただけます。

Office は雲（クラウド）の上。

夕方、出先にいて「本日中」の報告書作成に気付いても、あなたは帰社する必要がありません。
Word、Excel、PowerPoint ファイルとアプリケーションならクラウド上にあるから、
どこにいても、いつもと同じオフィスにいるように仕事が続けられます。
もう、ハード ディスクのクラッシュを恐れることもありません。
Office アプリケーションは最新版。セキュリティ対策も万全です。

Office 365 ProPlus
Office 365 Business
Office Online

- □ 全世界で 10 億人が利用する Office を、クラウド化
- □ 最新版 Office アプリケーションをフルセットで自動配信
- □ 最新セキュリティ更新プログラムの自動適用
- □ Office アプリケーションの展開と管理を柔軟に

新旧版の共存により、互換性の問題も解決

Office 365 ProPlus / Business は仮想化アプリケーションであるため、Office 2007 や Office 2010 など、既にお持ちの旧バージョンの Office と共存させることができます。旧バージョンを残したままインストールする、両方を同時に立ち上げるといった活用方法が可能です。また、旧バージョンのユーザーでも同じ文書ファイルを編集できるよう、最新の機能や拡張機能を制限する互換モードも装備。新旧の互換性を検証しながら、安心して最新の Office アプリケーションへと徐々に移行していただけます。

クラウドで提供される Office アプリケーション

Office 365 ProPlus	月額 ¥1,310	最上位のビジネス向け Office スイートをクラウドから提供。1 ユーザーあたり合計 15 台まで、複数のデバイスで利用できます。
Office 365 Business	月額 ¥900	Access と Skype for Business クライアントを除く Office アプリケーション。Powe BI などの一部の機能も利用できません。
Office Online		Web ブラウザーを通じて、資料の閲覧と簡単な編集が行える、簡易版 Office アプリケーション。

同時編集で、手戻りを大幅に削減

SharePoint Online にファイルを置いておけば、Office アプリケーションや Office Online で、同じファイルを他の人と同時に開いて作業を行えます。誰かがファイルを開いて仕事をしているために、他のメンバーがしばらく待たなければならない、というようなことがなくなります。誰がどこを編集しているのかも確認できるため、手戻りは大幅に削減されます。

Office の最新版を利用するメリット

スマートフォンやタブレットの普及により、いまや最新版のアプリケーションを利用することが当たり前のようになりました。常に最新版の Office アプリケーションを提供する Office 365 ProPlus / Business では、ユーザーの利用するバージョンを統一させることにより管理が容易になるほか、多様なデバイスへの対応や、サポートの終了に遭遇しない、といったメリットも享受できます。統合的な観点からコスト パフォーマンスに優れていると言えるでしょう。

Office 365 ProPlus に含まれるコンポーネント

- Word
- Excel
- PowerPoint
- OneNote
- Outlook
- Publisher
- Access
- Skype for Business

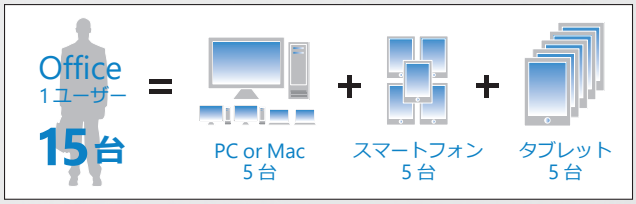
※Office 365 Business には付属していません。

クラウドから最新版を自動展開

Office 365 ProPlus / Business では、クラウド上で最新版に切り替わると自動的にインストールが実行されるため、システム管理者はアップデート業務などで煩わされることがありません。常に最新の機能、最新のセキュリティ更新プログラムが適用された Office アプリケーションを取得することができます。

1 人で、15 台のデバイスを使い分け

ライセンスの提供方法はこれまでのデバイス単位ではなく、ユーザー単位で行います。1 ユーザーあたり 15 デバイスまでのライセンスが含まれており、会社ではデスクトップ PC、外出先ではタブレット、在宅勤務時には自宅の Mac など、目的によって複数のデバイスを使い分けながら Office を利用できます。



新プラン

Office 365 Business

Office 365 Business は、Office アプリケーションの最上位バージョンである Office 365 ProPlus の廉価版 Office アプリケーションです。Access と Skype for Business クライアントが付属していません。Skype for Business クライアントの外線通話機能以外は、Skype for Business Basic で代替できます。その他、次のような高度な機能が利用できません。

- グループ ポリシー
- テレメトリ ダッシュボード
- BI (PowerPivot、PowerView)

Office Online

Office がインストールされていないデバイスでも、Web ブラウザーさえあれば、Word や Excel、PowerPoint、OneNote を利用できるのが、Office Online です。資料の閲覧はもちろん、簡単な編集が行えます。

PC	閲覧・編集	iPhone	閲覧
Mac	閲覧・編集	Android Phone	閲覧
iPad	閲覧・編集	Android Tab	閲覧

Exchange Online

- ☐ 50GB の大容量メールボックス
- ☐ スケジュール管理
- ☐ 施設、機材予約
- ☐ 連絡先管理
- ☐ タスク管理
- ☐ Office と密に連携

安 心

標準で 50GB の大容量メールボックス

Office 365 では、標準で 50GB のメールボックスを提供。個人用アーカイブも標準で提供されているため、50GB の中身をユーザーが自分に最適なかたちで、メールボックスとアーカイブ領域に分けて利用できます。これにより、以前のメールを保持したまま、スムーズなメールのやり取りを行えます。

安 全

トランスポート ルールで安全なメール運営

トランスポート ルールは、組織を通過するメールに、条件を確認して必要な処理を行う仕組みです。たとえば、個人情報が記載されたメールは自動的に上司の承認を必要とする、というような設定が可能。免責事項を挿入するなど、多様で柔軟なルールを設定できるので、企業のポリシーに従った運営が可能です。

メールの保持期間を可視化するポリシー

コンプライアンス遵守のためには、メール データの保持期間を定めるポリシーの策定も求められます。Exchange では、組織レベルの保持ポリシーを作成し、部署単位での適用が可能。誰もが瞬時に把握できるよう、ポリシーはヒントとしてメール作成時に表示します。

Office 連携

効率よく、適切に仕事を遂行するシステム

Exchange Online は、仕事を効率よく適切に処理するためのメールを起点としたシステムです。特に、クライアント アプリケーションとして Outlook を利用する際に、最大の価値を発揮します。

マルチ デバイス

ほぼすべてのデバイスから利用可能

PC や Mac で利用できるのはもちろんですが、ブラウザー、専用アプリ、ActiveSync により、ほぼすべてのデバイスから利用可能。データはクラウド側で管理されるため、デバイス間の同期は自動化されます。

スケジュールは雲（クラウド）の上。

メールや電話によるスケジュール調整はひと苦労でした。
なかなか相手が捕まらなかったり、既に予定が埋まっていたり。
いまではクラウド上でチーム メンバーの状況がひと目で分かります。
会議の出席者を調整して、会議室を予約。関係者には必要に応じてメール送信。
ポリシーも万全だから、誤送信による情報漏えいの心配もありません。

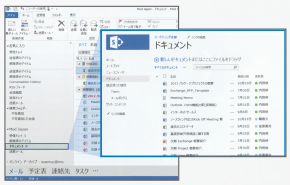
単体サービスとして導入可能な Exchange Online

Exchange Online (プラン 1)	月額 ¥440	メール、予定表共有、施設予約、連絡先などの標準機能を備えた基本プラン。
Exchange Online (プラン 2)	月額 ¥870	プラン 1 にコンプライアンス対応無制限アーカイブ、インプレース保持、データ損失防止、ボイス メール、IRM などの機能が付加された上位プラン。
Exchange Online キオスク	月額 ¥220	デスクやオフィスを持たない従業員の方のための、電子メール (メールボックス容量は 2GB) を中心としたエントリー プラン。
Option Exchange Online Archiving	月額 ¥330	無制限のアーカイブ領域とコンプライアンス対応のアーカイブを可能にするオプションです。Exchange Online (プラン 1) / キオスク、Office 365 Enterprise E1、Office 365 Business Essentials、Office 365 Business Premium に追加可能です。

便 利

チームでの共同作業を促進

チームの予定を把握するには、グループ スケジュールを確認。選択したメンバーの予定を確認し、予定が空いている日時を確認できるため、会議の調整も素早く行えます。SharePoint と連携させれば、チーム サイトと連動させることにより、さらに効率的な共同作業が可能です。



万全なスパム メール対策で安心

スパム メールは、送信者や受信者、Sender ID など複数のフィルターで検出するとともに、過去の検出結果をも活用しています。特定の地域から送信される、特定の言語のメールのみを受信する設定も可能です。また、多層防御を可能にする Exchange Online Protection も標準搭載されています。

万一の災害や事故の際でもメールが継続可能

メールやスケジュール、連絡先など、消えると困る重要情報も、Office 365 ではクラウド上に保存、管理されるため、万一の事故や災害時でも失うことがありません。仮に現在のデバイスからメールが送受信できなくなっても、他のデバイスから続けられます。

共同で利用可能なメールボックスや機能

Exchange Online のメールボックスや機能は、業務効率向上や、スケジュール共有の促進に最適です。使用にあたっては、いずれもライセンス費用や追加費用が一切かかりません。

リソース メールボックス	
会議室メールボックス	10GB
会議室を登録すれば、空き時間をすぐに見つけられるようになります。会議室の場所、電話番号、定員も表示できます。	
備品メールボックス	10GB
プロジェクターや車など、さまざまな備品の管理を行います。	
共有メールボックス	10GB
たとえば、info@xxxx.jp などの代表メール アドレスで利用するメールボックス。権限のあるメンバーが同じメールボックスを確認すれば、対応が確実です。	
パブリック フォルダ	50GB
組織内で公開する会話や掲示板、資料などの共有に利用。	
配布グループ	
チーム単位やプロジェクト単位など、ユーザーを一つにまとめてメールをやりとりする際に利用。	
サイト メールボックス	5GB
SharePoint Online が提供する機能。資料の共有だけではなく、関連するメールなども 1 か所に集約されるので、プロジェクトの推進などに便利です。	

Plan 2

コンプライアンス対応アーカイブ機能

Office 365 には、コンプライアンス対応アーカイブ機能の Exchange Online Archiving (EOA) をオプションとして加えられます。この場合、アーカイブ領域は無制限となり、実質的にすべてのメールをアーカイブしておくことが可能です。

重要情報の流出を防ぐデータ損失防止機能

データ損失防止機能は、重要データの流出を防ぐためのものです。たとえば、個人情報やクレジット カード情報が含まれているメールを検出し、配信停止にするといった措置をとることができます。ポリシー テンプレートの活用により、すぐに始められます。

社内電話をボイス メールに

ホスト型の音声メッセージ サービスにより、会社は社内電話システムを Exchange Online が提供するボイス メール サービスに接続できます。ユーザーは、Outlook、Outlook Web App、携帯電話などから音声メッセージにアクセスできるようになります。

Office 連携

Office から操作可能な共有機能

ファイルを SharePoint Online 上に置いておけば、Office からの共有のための招待メールの配信や権限管理が可能です。SharePoint Online の操作を覚えていなくとも操作できるため、誰でも簡単に、そして、安全に共有を図ることが可能です。

簡 単

迷うことのないファイル操作

ドラッグ & ドロップでファイルのアップロードやダウンロードが可能なだけではなく、日々の業務で行うような Explorer を利用したファイル操作も可能です。特別な操作方法が必要ないため、ユーザーは迷うことがありません。

「保存先はクラウドへ」が基本

簡単かつセキュアな情報の共有。データの喪失するリスクの飛躍的な低下。クラウド上に保存されているからこそ利用できる機能をはじめ、クラウドの活用にはさまざまなメリットがあります。Office アプリケーションもクラウドに保存することを前提に設計されています。

SharePoint Online

- ☐ 情報共有の促進
- ☐ 文書管理機能
- ☐ Office から操作可能な共有設定
- ☐ テンプレートにより簡単に共有サイトを構築
- ☐ 外部向けの公開用 Web サイトの作成管理
- ☐ 1TB の組織内個人向けクラウド サービス

単体サービスとして導入可能な SharePoint Online

SharePoint Online (プラン1)	月額 ¥540
情報や文書を一元管理し、社内外で共同作業を行うための標準機能を備えたプラン。	
SharePoint Online (プラン2)	月額 ¥870
プラン 1 に、エンタープライズ検索やビジネス インテリジェンスなど下記の高度な機能が付加された上位プラン。 ・Forms/Excel/Visio Services　・PowerView　・PowerPivot ・高度な検索　・Business Connectivity Services (BCS)	
Option SharePoint Online Storage	月額 ¥22/1GB
1GB 単位でファイル容量を拡張できる、SharePoint Online のアドオン プラン。	

アンケート機能を利用して情報収集

社内の意見を収集する際、SharePoint Online では簡単にアンケート調査のページを作成できます。回答形式は、選択肢のメニュー、数値のみの入力、自由記述などさまざまな設定が選べます。

マルチ デバイス

アプリでファイル同期もスムーズ

OneDrive for Business や SharePoint の同期アプリケーションを利用すれば、SharePoint 上のドキュメント ライブラリとローカル デバイスのフォルダーを同期できます。ローカル デバイスのファイルはオフラインでも利用可能で、接続時に自動的に同期して常に最新状態を維持します。同期アプリケーションは Windows 版、iOS 版があります。Android 版もリリース予定です。

組織内個人用作業領域 OneDrive for Business

OneDrive for Business は、組織内個人がこれまで「ドキュメント」フォルダーに保存していたような作業中のファイルを、クラウド上に保存するための領域です。1TB の容量が割り当てられており、Office からクラウド上へ直接保存することができるため、ユーザーはこれまでと変わらない方法で作業できます (P20 参照)。

無駄、手戻りを最小化する文書管理

間違って修正した資料。間違って削除したファイル。Office 365 の文書管理機能を利用すれば、これらも元通りにできます。バージョン管理機能は、資料を修正前に。ごみ箱機能は、削除したファイルを元に。クラウドに保存すれば、バージョンの散在が防げるほか、手戻りや無駄な作業が大幅に少なくなります。

共 有

情報共有を促進するチーム サイト

チーム サイトは、チームやプロジェクト単位で情報共有するためのクラウド領域。情報を発信する掲示板、共同作業のためのドキュメント ライブラリ、社員コミュニケーションのためのエンタープライズ ソーシャルなどを、テンプレートで容易に構築できます。

外部のユーザーと安全にファイルを共有

SharePoint Online には、ファイルを外部ユーザーと共有するための招待機能があります。サインインが必要な方法と不要な方法 (閲覧権限のみ) があり、そのときの状況とニーズに応じて選択できます。権限も自社で管理できるため、安全に共有を図れます。招待できる人数は無制限です。

安全・安心

安全なドキュメント管理による災害対策

ドキュメントの管理では、便利な共有化を図るだけではなく、安全に保存することも重要です。地震や火事などの災害、盗難による被害、機械の故障など、数多くのリスクがありますが、クラウドに保存しておくことで、こうしたリスクを最小化できます。

ファイル、ライブラリ、サイト単位の権限管理

SharePoint Online では、ファイル単位、ライブラリ単位、サイト単位など、さまざまな単位で権限を管理できます。Office からは、ファイル単位の権限操作も可能です。たとえば、Word ファイルの共有相手を指定するというように、SharePoint Online での操作方法を知らなくても簡単に権限管理できます。

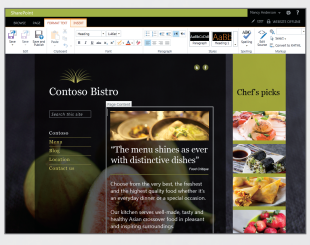
ナレッジ共有は雲(クラウド)の上。

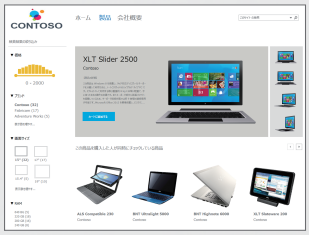
ビジネス資料の作成は、関係者がそれぞれの得意分野を活かし、分担して進められれば効率的です。
クラウド上の社内データを使って需要予測を立てる。売上データの集計レポートを作成する。
現場レベルの小さな改善の意見を引き出して、チーム メンバーで共有する。
あなたの、そして、関わる人すべてのアイデアとドキュメントが、
組織全体のナレッジになるのです。

便 利

美しく魅力的な Web サイトを構築可能

豊富なデザイン テンプレートを使用し簡単なカスタマイズによって、美しく魅力的な公開用 Web サイトを構築できます。設定をすれば、自社ドメインで利用することも可能。追加のオプション費用などは一切不要。管理も簡単なので、割安に自社ホームページを持つことができます。





Plan 2

エンタープライズ検索で素早くアクセス

必要な情報にアクセスするため、FAST Search の検索機能を統合。SharePoint 上はもちろん、ファイル サーバーや外部 Web サイトまで、あらゆる情報を検索できます。結果は一覧表示だけでなく、ファイルであれば中身が表示されるよう構造化されています。

Excel Services などの高度な機能

Excel Services は、主にビジネス インテリジェンス で用いられます。Excel のブックを外部データ ソースに接続し、レポートを作成。そのブックは SharePoint ドキュメント ライブラリに公開できます。外部データ接続は維持されており、必要に応じてデータを最新状態に更新することも可能です。

Skype for Business Online

- □ 在席確認 (プレゼンス) 機能
- □ インスタント メッセージ (チャット)
- □ オンライン会議の開催
- □ ホワイトボードによる共同作業
- □ レコーディング議事録

経費節減

交通費ゼロ、移動時間ゼロで会議する

Skype for Business では、支店や在宅勤務、外出中のスタッフなど、離れた場所にいるメンバーとオンライン会議を開催できます。顔を見ながら会議を進めることで、メンバー間での資料やノウハウなどの共有がスムーズに進み、業務効率化や生産性向上を図ることが可能です。出張に伴う交通費や宿泊費なども削減できます。

Office 連携

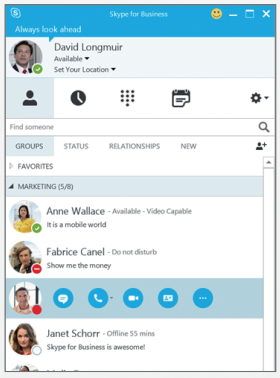
Office 連携でオンライン会議を開始

Office アプリケーションの使用中に、直ちにオンライン会議に入ることが可能です。Office による操作であるため、会議中に誰もが簡単に必要な資料を共有できます。

便 利

相手の状況を瞬時に把握

相手がいま連絡できるかどうか状況を把握したいときは、Exchange Online の予定表と連携した在席確認 (プレゼンス) 機能を利用します。相手が連絡可能なら、通話やメール、インスタントメッセージが同じ画面上からワンクリックで始められます。ちょっとした疑問をすぐに解決したい場合などに最適です。



会議をレコーディングし議事録に

オンライン会議の際にレコーディング機能を活用すると、会話の内容を記録できます。保存済みのファイルをそのまま議事録としても利用できるほか、WMV 形式で配布することも可能です。

安 全

安全なコミュニケーション

Skype for Business によるコミュニケーションは暗号化によって保護されています。リモート アクセス時でも VPN (仮想専用ネットワーク) 接続することなく、安全なインターネット経由で、音声やビデオによる通話、インスタント メッセージが行えます。

マルチ デバイス

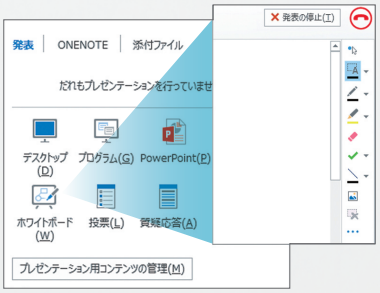
さまざまなデバイスでの利用

Skype for Business は Windows 版以外に、Windows RT、Windows Phone、iPad、iPhone、Android 版のアプリがリリースされており、さまざまなデバイスでビデオ会議が可能です。在席確認 (プレゼンス) 機能も利用可能。コミュニケーション効率を飛躍的に向上させます。

共 有

ホワイトボードによる共同作業

「ホワイトボード」は、オンライン会議の参加者がメモを入力したり、図を描いたりなど、他の参加者と共同作業するためのものです。議論のポイントの明確化や、参加者とのブレインストーミングに活用できます。会議終了後は、共同作業で作成したホワイトボードを OneNote に保存することも可能です。



ファイルをリアルタイムに共有

インスタント メッセージの利用時には、Excel や PowerPoint などの資料も同時に送受信できます。資料を画面上で共有し、共同で編集しながら、効率的な打ち合わせが行えます。

単体サービスとして導入可能な Skype for Business Online

Skype for Business Online (プラン 1)	月額 ¥220	在席確認や 1 対 1 での音声、ビデオ会議などを可能にする基本プラン。
Skype for Business Online (プラン 2)	月額 ¥600	プラン 1 に、3 名以上のマルチ パーティでの会議や共有の機能を付加した上位プラン。

会議は雲（クラウド）の上。

支社の担当者と打合せが必要になったあなた。昔であれば、こちらから現地に出向く必要がありましたが、出張のための経費もかけてはいられません。そもそも、移動の時間が無駄なのかも。クラウドを通じて相手が在席しているか確認して話す。相手と同じファイルを見ながら話して、何が課題かを共有する。いまや、あなたのデスクトップが、会議室への入口に変わります。

Yammer

- □ マイクロ ブログ
- □ グループ機能
- □ タグ付けによる整理
- □ モバイル端末の利用
- □ SharePoint との連携

Office 連携

Office ファイルの利用も効率的に可能

Yammer 上にアップロードされた Office ファイルは、Office Online によって高い再現性でのプレビュー表示をしたり、オンライン編集をする事が可能になっています。ソーシャルの気軽なコミュニケーションでも、Office ファイルを効果的に利用できるので、ビジネスでの利用に最適です。

つながりは雲（クラウド）の上。

あっという間に社会に浸透した SNS。「つながり」や「共有」といったメリットを
あなたがプライベートで実感しているのなら、
いますぐビジネスに活用してみませんか？ソーシャルの利点はそのまま、
エンタープライズ向けに最適化された yammer。
他部門や取引先との垣根を超えた知の連携が、
新しい働き方を、思わぬイノベーションを生むかもしれません。

単体サービスとして導入可能な Yammer

Yammer Enterprise	月額 ¥330	世界中で幅広く利用されている、企業内向けソーシャル ネットワーク サービス。

便 利

使いやすく、親しみやすい

Yammer のページは、一般的なソーシャルを一度でも利用した経験のある方ならすぐにご利用いただける、親しみやすく、使いやすいデザインが特長です。ホーム フィード画面を表示すれば、購読している人やグループの投稿をはじめ、通知や会話もチェックできます。

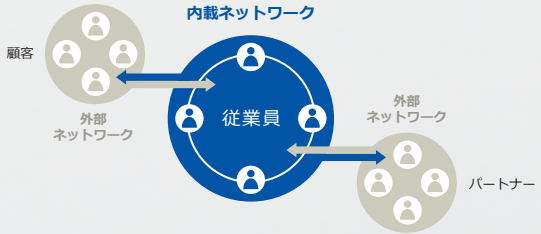
気軽に会話に参加

会話には気軽に参加でき、[返信] でコメントを付けられるほか、[いいね] ボタンを押すだけでも大丈夫です。会話を誰かに共有してあげたり、タグを付けて後で検索しやすくする事もできます。

安 全

ビジネス利用にふさわしいセキュリティ

ビジネスでの利用にふさわしい管理機能とセキュリティを提供しています。Active Directory や SharePoint などの既存 IT 資産と高度に連携。さらに、組織のポリシーに合わせてソーシャルを管理することも可能です。



マルチ デバイス

あらゆるデバイスで情報をタイムリーに

スマート デバイス用のアプリを提供し、マルチ デバイスに対応する Yammer なら、いつでもどこでも最新の情報にアクセスできます。さらに、通知機能を活用すれば、自分宛てのメッセージやアクティビティを見逃すことなく、タイムリーにフォローアップできます。

共 有

有益な情報を簡単に共有

グループ内で共有できるのは会話だけではありません。ノートやファイルも共有できます。たとえば、リッチ テキストによるコンテンツを共有できるノート。複数での同時編集が行えるノート。またグループ管理者は、メンバーが編集できない公式ノートを作成することもできます。また、よく使うリンクをまとめて掲載するなどプロジェクト チームのポータルとして活用できます。

共同作業でグループのファイルを作成 / 共有

グループに共有されたファイルはブラウザーでプレビューしながら、コメントで議論。ブラウザー上での編集やバージョンの管理も可能です。

Yammer を活用した取引先とのコラボレーション

Yammer は社内のコラボレーションに使えるだけではありません。社外の取引先やパートナーとのやり取りやファイルの共有にも活用できます。サイトは社内用と別に作られるので、情報漏えいの心配もありません。

Office アプリケーションが必要

→ Office アプリケーションのみが必要

BI 機能が必要
Excel の BI 機能
- Power Query
- Power View
- Power Pivot
- Power Map

SharePoint の BI 機能
- Power BI Q&A
- Power BI サイト
- Windows ストア アプリ

BI 機能については、P18 を参照ください。

→ Office アプリとクラウド サービスを利用

あなたの企業に最適な Office 365 は?

企業や組織の規模によって、利用したいアプリケーションやサービスによって、Office 365 には、さまざまなファミリーとプランが用意されています。
問いに答えれば、あなたの企業に最適な Office 365 が見つかるはずです。
ぜひ、ご参考にしてください。

クラウド サービスだけが必要

→ 2 つ以上のサービスを利用する

→ Skype for Business Online、Exchange Online、SharePoint Online いずれかの高度な機能が必要

BI 機能が必要
SharePoint の BI 機能
- Power BI Q&A
- Power BI サイト
- Windows ストア アプリ

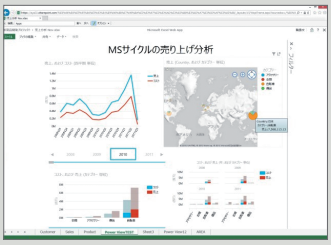
BI 機能については、P18 を参照ください。

YES →
NO →

Office 365

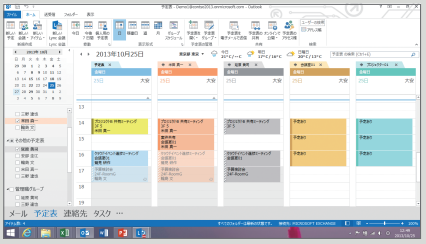
- メール環境とスケジュール管理を改善する
- ファイル共有やポータル
- オンライン会議を利用する
- エンタープライズ ソーシャルを利用

毎日の業務に活用できる Office 365 の特徴的な機能



Web 版 Office でどこでも作業

Web 版 Office は、Office アプリケーションで作成した内容を忠実に表現します。型崩れなどに悩まれることはありません。もちろん、対応デバイスなら編集も可能です。



テレメトリ ダッシュボード または 展開ツールの利用が必要

Access が必要

テレメトリ ダッシュボード または 展開ツールの利用が必要

Access が必要

高度な機能が必要

- Office 365 ProPlus P17
- Office 365 Business P16
- Office 365 Enterprise (E3) P17
- Office 365 Business Premium P16

Skype for Business Online の高度な機能
- 外線通話機能

Exchange Online の高度な機能
- コンプライアンス対応アーカイビング
- データ損失防止機能
- ボイス メール
- 容量無制限のアーカイブなどの高度な機能が必要

SharePoint Online の高度な機能
- BCS
- 高度な電子情報開示機能
- 動画検索
- Visio サービスなどの高度な機能が必要

- Skype for Business Online (プラン 2) P10 P18
- Exchange Online (プラン 1) P6 P18
- Exchange Online (プラン 2) P6 P18
- SharePoint Online (プラン 1) P8 P18
- SharePoint Online (プラン 2) P8 P18
- Yammer Enterprise P12 P18

プラン 2 を 3 つ以上組み合わせる場合は、E3 をご検討いただくことをお薦めします。各ページ記載の機能や Web ページでの最新情報をご確認のうえ、ご選択ください。

ハイブリッドな利用
自社運用のプライベート クラウドとマイクロソフトが運用するパブリック クラウドの両方を利用することが必要

- Office 365 Enterprise (E1) P17
- Office 365 Business Essentials P16

Exchange Online の高度な機能
- コンプライアンス対応アーカイビング
- データ損失防止機能
- ボイス メール
- 容量無制限のアーカイブなどの高度な機能が必要

- Exchange Online (プラン 1) P6 P18
- Exchange Online (プラン 2) P6 P18

SharePoint Online の高度な機能
- BCS
- 高度な電子情報開示機能
- 動画検索
- Visio サービスなどの高度な機能が必要

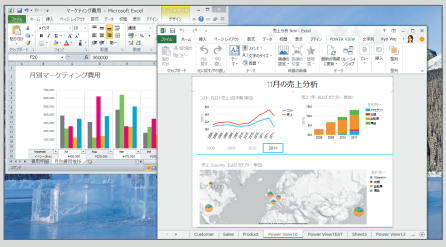
- SharePoint Online (プラン 1) P8 P18
- SharePoint Online (プラン 2) P8 P18

メンバーが自由にオンライン会議を設定したり複数名でのチャットをすることが必要

- Skype for Business Online (プラン 1) P10 P18
- Skype for Business Online (プラン 2) P10 P18
- Yammer Enterprise P12 P18

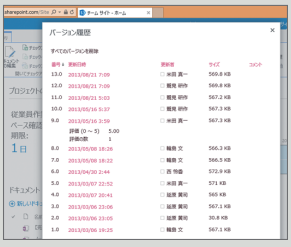
容易なスケジュール調整

Exchange Online を利用すれば、人だけではなく、会議室や機材などのスケジュール管理も簡単にできるので、さまざまなスケジュール調整が容易になります。



Office の新旧バージョンが共存可能

Office 365 の Office アプリケーションは、古いバージョンとの共存が可能です。左の画面は、Office 2010 と同時に立ち上げている様子です。



バージョン管理機能

バージョン管理の仕方は最適な方法を選択できます。承認を必要としたり、評価をしたりすることが可能です。

Office 365 セット プラン

中規模企業に、必要な機能と十分な IT 管理要件を網羅する

Office 365 Business

利用規模 : 1 ～ 300 名
月額課金 : 540 円 ～

Office 365 Business は、1 ～ 300 名の中小規模の企業、組織向けのファミリーです。Office アプリケーションを含むクラウド サービスをご利用いただければ、クラウド時代に必要なビジネス ツールはすべてそろいます。
充実した管理機能を備えている上に、必要に応じて Enterprise ファミリーと組み合わせることで高度な管理やコンプライアンス機能を安価に利用することも可能です。

Office 365 Business ファミリーの特徴

Office アプリケーション　Office 365 Business は、最上位バージョンの Office 365 ProPlus に対して Access と Skype for Business クライアントが付属せず、また一部機能が利用できないバージョンです。反面割安に Office アプリケーションをご利用いただけます。(詳細は、P5 を参照してください。)

クラウド サービス　Office 365 Business Essentials には、Exchange Online (プラン 1)、SharePoint Online (プラン 1)、Skype for Business Online (プラン 2) がセットで含まれます。もちろん、OneDrive for Business も含まれておりますので、非常にお得にクラウド サービスの利用を始めることが可能です。どのプランも利用ユーザー数の上限は 300 です。Enterprise ファミリーの各プランと組み合わせてご利用いただけますので、300 ユーザーを超えたり、より高度な機能が必要なメンバーには Enterprise ファミリーのご利用をご検討ください。

中規模組織向けの安心の拡張電話サポート

Office 365 をご契約のお客様は、豊富な知識を持つエキスパートから、メールや仮想チャットなどによるサポートを受けられます。Business ファミリーをご契約のお客様に向けた電話サポートは、重大な問題に対しては 24 時間体制で対応、それ以外の問題は、平日の 9:00 - 17:30 の間で対応しています。

ファミリー	プラン
Target Customer	月額課金
	利用ユーザー数 – 上限
	サポート
Standard Services	Office アプリケーション
	タブレット・スマートフォンからの Office 利用
	Web 版 Office による表示・編集
	組織内個人用クラウド ストレージ（1TB）
	メール・予定表・連絡先、スパム / ウィルス対策
	在籍確認・Web 会議・インスタント メッセージ
	個人用アーカイブ、クライアント アクセス
	共同作業ポータル
	ソーシャル
	Delve
	Active Directory との統合
	インプレース電子情報開示 (eDiscovery)
Advanced Services	ハイブリッド展開
	データ損失防止 (DLP)
	インプレース保持、訴訟ホールド (容量無制限のアーカイブを含む)
	エンタープライズ VoIP
	Information Rights Management (IRM)
	Forms/Excel Services、PowerView、PowerPivot、高度な検索、Business Connectivity Services (BCS)

Office 365 セット プランの特徴

よりきめ細かな管理を実現する Windows PowerShell

Exchange や SharePoint、Skype for Business の管理は通常、ブラウザーから行うことができますが、よりきめの細かい管理を行いたい場合は、Windows PowerShell により実行することが可能です。パスワードの管理、グループへのユーザーの追加、ライセンスなどの管理や、サービスのオプションの詳細な構成をコマンドラインから実行できるようになります。

Active Directory 連携でシングル サインオン環境を構築

強力な認証基盤である Active Directory と連携を図ることが可能です。これにより、ユーザーの資格情報とアクセス許可を管理し、シングル サインオン環境を構築。ユーザーは複数のパスワードを記憶する必要がなくなり、使い勝手が向上します。

組み合わせによりコストの最適化と業務効率の向上を実現

Business と Enterprise および単体サービスは、ユーザー単位で自由に組み合わせて選択いただくことが可能です。
ユーザー一人ひとりの環境や役割に合わせて最適なプランを利用いただくことで、コストの最適化と業務効率の向上の両方を容易に実現することが可能です。

企業、組織のあらゆるビジネス ニーズに応える

Office 365 Enterprise

利用規模 : 無制限
月額課金 : 440 円 ～

Office 365 Enterprise は、企業、組織のあらゆるニーズに応えるフルパッケージのファミリーです。
オンプレミスのシステムとのハイブリッドでの利用なども可能です。
コンプライアンス、BI、セキュリティについて数々の高度な機能や、Office アプリケーションの
最上位バージョンをまとめてご利用いただくための E3 などが用意されています。

Business			Enterprise				
B	BE	BP	ProPlus	K	E1	E3	E4
¥900	¥540	¥1,360	¥1,310	¥440	¥870	¥2,180	¥2,390
300			制限無し				
営業時間内 テクニカル電話サポート			24 x 7 テクニカル電話サポート				
Business	OP	Business	ProPlus	OP	OP	ProPlus	ProPlus
●	×	●	●	×	×	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●
●	●	●	●	×	●	●	●
×	●	●	×	ExO キオスク	●	●	●
×	●	●	×	×	●	●	●
×	●	●	×	×	●	●	●
×	●	●	×	SPO キオスク	●	●	●
×	●	●	×	×	●	●	●
×	●	●	×	×	●	●	●
●	●	●	●	●	●	●	●
×	●	●	×	●	●	●	●
×	×	×	●	●	●	●	●
×	×	×	×	×	×	●	●
×	OP	OP	×	×	OP	●	●
×	×	×	×	×	×	×	●
OP	OP	OP	OP	×	OP	●	●
×	×	×	×	×	×	●	●

B: Business　BE: Business Essentials　BP: Business Premium　OP: オプション

Office 365 Enterprise ファミリーの特徴

Office アプリケーション　Office 365 ProPlus は、最上位バージョンの Office アプリケーションです。高度な Power BI 機能をご利用いただくには、こちらのプランが必要です。

クラウド サービス　利用ユーザー数の上限のない最上位ファミリーです。あらゆる規模の企業・組織でご利用いただくのに必要な機能やサービスを提供します。中小規模でも Power BI などの高度な機能を必要とする場合には、こちらのファミリーからご選択いただくことをお薦めします。さまざまな単体プランなども用意されているので (P18 を参照してください。)、組織やユーザーのニーズに応じて自由に選択していただけます。共有 PC で業務を遂行できる工場や店舗などのメンバー向けの格安プランであるキオスクも用意されておりますので、コストの最適化にも貢献します。

すべての問題に 24 時間 365 日 電話で対応する、充実のサポート

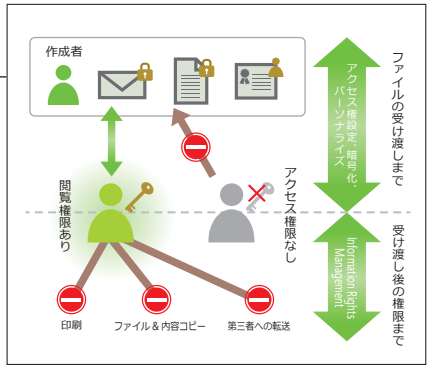
Office 365 をご契約のお客様は、豊富な知識を持つエキスパートから、メールや仮想チャットによるサポートを受けられます。コミュニティからの参照や、一般的な問題に素早く自分で対処できるセルフ ヘルプも充実。なお、Enterprise 各プランをご契約のお客様は、すべての問題に対して 24 時間 365 日、電話による技術的なサポートを受けることが可能です。

充実した IT 環境を 管理する機能

ある程度、組織の規模が大きくなってくると煩雑になる IT 環境の管理。Office 365 では、たとえば、最新版の Office アプリケーションをクラウドから自動更新することにより、ソフトウェア管理の負担を軽減しています。また、ユーザーの追加 / 削除や電子メール ポリシー、ドキュメントへのアクセス権限の設定なども管理画面から行うことが可能です。

ファイルに権限を割り当てる Information Rights Management

Information Rights Management (IRM) により、ドキュメントの作成者は、他のユーザーに対して作成したファイルの権限を割り当てることができます。ファイルは許可されたユーザーのみが閲覧できるように暗号化され、テキストのコピーや印刷などの権限をファイルに指定することが可能です。



Office 365 単体サービス一覧

Office 365 は、スイート プランのほかに、各種単体サービスとオプションを用意しております。
1ユーザーごとに必要なプランを割り当てることができるので、コストを最適化することが可能です。
また、1 ユーザーに複数のプランを割り当てることも可能です。たとえば、コミュニケーションと情報共有を促進するために Exchange Online と SharePoint Online を割り当てたり、コミュニケーションを円滑にするために Exchange Online、Skype for Business Online と Yammer Enterprise を割り当てたり、ということが可能です。複数の単体プランを割り当てる場合には、スイート プランをご選択いただいた方が割安な場合もありますので、慎重にご検討ください。
また、いくつかオプションも用意しています。オプションは必ず必要なものではありませんが、特定の機能が必要な場合に、スイート プランをご選択いただくよりは割安に必要機能を実現することが可能になる場合があります。

単体サービス	プラン	1年契約 月額	月極契約 月額	主要機能
Office 365 ProPlus		¥1,310	—	Office アプリケーション (Outlook、Excel、Word、PowerPoint、Access、InfoPath、Publisher、OneNote、Skype for Business)。
Office 365 Business		¥900	—	Office アプリケーション (Outlook、Excel、Word、PowerPoint、Publisher、OneNote)。BI やテレメトリなどのエンタープライズ機能は利用できません。
Exchange Online	Exchange Online キオスク	¥220	—	2GB メールボックス、Exchange ActiveSync、Outlook での接続は不可。
	Exchange Online (プラン 1)	¥440	—	50GB のメールボックス、電子メール、予定、連絡先、個人用アーカイブ、eDiscovery、スパム / ウイルス対策。
	Exchange Online (プラン 2)	¥870	—	ボイス メールと無制限のアーカイブ機能。
SharePoint Online	SharePoint Online (プラン 1)	¥540	—	クラウド保存領域である SharePoint Online の基本的機能。
	SharePoint Online (プラン 2)	¥870	—	フォーム、データの可視化と分析、Access/Excel/Forms/Visio Services。
Skype for Business Online	Skype for Business Online (プラン 1)	¥220	—	1 対 1 をベースとしたインスタント メッセージの提供に加えて、プレゼンス機能も実現。
	Skype for Business Online (プラン 2)	¥600	—	高品質のオンライン会議の開催やアプリケーション共有などを通じた、コミュニケーションの新しいツール。
Power BI	SharePoint Online (プラン 2) Yammer 機能付き Power BI for Office 365	¥4,350	—	セルフ サービス ビジネス インテリジェンス環境の展開の障壁を取り除くクラウド ベースのソリューションです。SharePoint (プラン 2) Yammer 機能付きを含みます。
	Power BI E3/E4 契約者向けアドオン	¥2,180	—	E3/E4 契約者向けアドオンで、Excel ベースのライブ レポートおよびデータ クエリを共有したり、データ検出と情報アクセスを容易にする新機能および新サービスも備えています。
	Power BI SharePoint Online (プラン 2) 契約者向けアドオン	¥3,590	—	SharePoint Online (プラン 2) 契約者向けアドオンで、Excel ベースのライブ レポートおよびデータ クエリを共有したり、データ検出と情報アクセスを容易にする新機能および新サービスも備えています。
Office Online 機能付き OneDrive for Business		¥540	—	文書管理機能や共有を簡単にする 1TB のクラウド ストレージに、Office Online での編集機能が含まれます。
Yammer Enterprise		¥330	—	世界中で幅広く利用されている、企業内向けソーシャル ネットワーク サービス。
Project	Project Lite	¥760	¥980	Project Online 又は Project Server で管理されているプロジェクトのメンバーが、自らタスク / 共同作業 / タイムシートの管理ができるオンライン サービスです。
	Project Online	¥3,590	¥4,890	プロジェクト ポートフォリオ管理 (PPM) と日常の作業に適したオンライン サービスで、複数のプロジェクトを統合的に管理ができます。
	Project Pro for Office 365	¥2,720	¥3,700	最新のデスクトップ向け Project 最上位版を一人最大 5 台の PC で利用できるサブスクリプション サービス。
	Project Online with Project Pro for Office 365	¥6,310	—	プロジェクト ポートフォリオ管理 (PPM) と日常の作業に適したオンライン サービスに、最新のデスクトップ向け Project の最上位版が含まれます。複数のプロジェクトを統合的に管理ができます。
Visio Pro for Office 365		¥1,410	¥1,960	Visio サブスクリプションで、チームと共同作業しながら、高度で多様な図を作成可能。
オプション	Exchange Online Archiving	¥330	—	Exchange Online (プラン 1)/ キオスク、Office 365 Enterprise E1、Office 365 Business に追加可能なオプションで、無制限アーカイブ領域、コンプライアンス対応アーカイブの機能を提供。
	SharePoint Online Storage (1GB)	¥22	—	1GB 当たり月額。
	Azure Rights Management	¥220	—	機密ドキュメントや電子メールを保護するために役立つ強力な暗号化機能を提供します。データの表示、編集、印刷、保存、共有を許可するユーザーを指定することで情報の利用を管理できます。

Office 365 Enterprise ファミリー向け単体サービス

Project 最上位版を 1 人最大 5 台の PC で利用可能
Project Pro for Office 365

プロジェクト計画の策定、実行、管理、リソース割り当てなど、プロジェクト マネージャーが必要とする機能が凝縮されたデスクトップ版。Project Online や Office 365 と組み合わせれば、チーム メンバーとの情報共有 / 進捗管理をよりスムーズに行えます。

PPM と統合管理、可視化のためのツール
Project Online

Excel のような操作感で複数プロジェクトを統合的に管理。タスク、スケジュール、リソースの最適配分など、プロジェクトの可視化と優先順位づけを支援するためのツール。

プロジェクト メンバー向けの進捗管理ツール
Project Lite

チーム メンバー自らがタスク / 進捗報告 / タイムシートの入力が行えるため、プロジェクト マネージャーの作業負担軽減に役立ちます。

高度な作図とデータ連携でビッグ データを可視化
Visio Pro for Office 365

豊富な作図機能とテンプレート、各種 DB との連携機能でデータのビジュアル化を実現します。Visio 最上位版を 1 人最大 5 台の PC で利用可能。

使い慣れた Excel とクラウドで実現するセルフ サービス BI
Power BI for Office 365

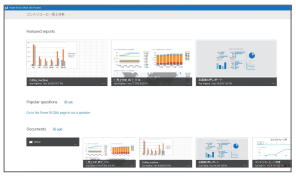
ビッグ データ時代におけるデータ活用の成功の鍵は、ビジネスの主役たる現場の社員が自ら分析を行うことにあります。必ずしも、高度な分析手法を取り入れたり、データ サイエンティストが多種多様なレポートを用意したりすることではありません。Power BI for Office 365 は、使い慣れた Excel とクラウドの活用により、手軽にビッグ データ分析を行える環境です。

Power BI Q&A

Power BI Q&A を利用すれば、日常的な言葉（自然言語）でデータに関する質問を入力できます。回答はグラフやマップなど、視覚エフェクトを通じて素早く得られます。

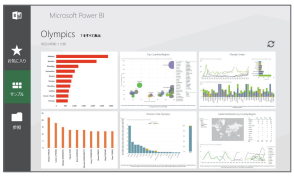
Power BI サイト

共同作業で Power BI を使用するための環境です。最大 250MB にも上る大きなブックをサポートしており、ユーザー同士、気兼ねなくレポートを共有できます。



Windows ストア アプリ

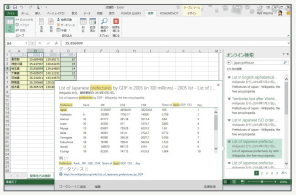
Windows ストア アプリは、HTML 5 とタッチに最適化されています。外出中でも、さまざまなモバイル デバイス上から、簡単な操作でレポートの共有が可能です。



Office 365 ProPlus または Office Professional Plus 2013 または単体 Excel 2013 をお持ちの場合の無料の Excel アドイン。

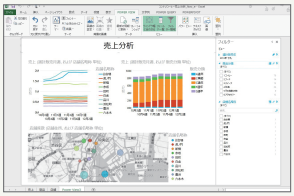
Power Query

企業の内外に存在する複数のデータ ソースから必要なデータを簡単に検索。そのデータを分析用に検出し、変換し、品質を高めます。



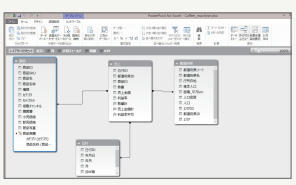
Power View

簡単かつインタラクティブな操作で、データ調査やビジュアル化、プレゼンテーションなどのためのレポートを直観的に作成できます。



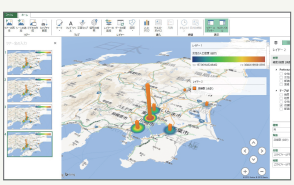
Power Pivot

Excel のデータ モデルをカスタマイズするとともに、さまざまなソースから取得した大量データをインメモリで高速に分析します。



Power Map

地理情報や時間情報をマップ上で 3D アニメーション表示します。データを視覚的に把握できるレポートを作成し、これまでにないインサイトを得られます。



※Office 365 Business の Excel では利用できませんのでご注意ください。

OneDrive for Business: クラウド ストレージの活用

OneDrive for Business は、組織内個人に割り当てられたクラウド上のストレージです。
1TB の領域が提供され、個人のワークスペースとして十分な容量があります。

Office アプリケーションのファイルをクラウドに保存することで、次のような、これまでとは全く異なるワーク スタイルを実現します。

いつでも、どこでも作業

クラウド上にデータを置いておくことで、ネットワークさえつながれば、いつでも、どこでも同じファイルにアクセスでき、効率的な作業を行うことができます。会社の PC だけではなく、外出先のタブレットで、出張先のレンタル PC で、移動中にスマートフォンで、デバイスや場所を問わず、必要な時に自分の求める方法で仕事を進めることができるようになります。一層業務効率の向上を求められる中、時間を有効活用するワーク スタイルの実現には大きな意味と意義があります。

情報共有

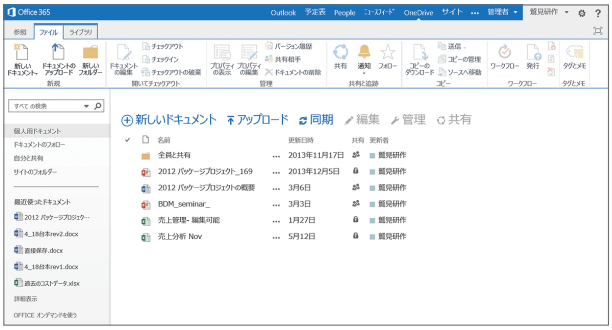
クラウド上にデータを置いておくことで、Word や Excel、PowerPoint のような Office アプリケーションから、他のメンバーに直接共有のための招待をしたり、これまでとは全く異なる情報共有環境を作れます。共有の権限管理も Office アプリケーションから操作することができるようになり、誰でも簡単に効果的な情報共有を促進できます。メールにファイルを添付する共有のスタイルから、クラウドを活用した新しい共有のスタイルに移行することで、さまざまな手戻りを限りなくゼロに近づけることが可能になります。

OneDrive for Business

バックアップ作業の軽減

クラウド上にデータを置いておくことで、情報が分散しているときわめて困難だったバックアップの心配をする必要が相当程度軽減されます。ローカルの「ドキュメント」フォルダに置かれているファイルのバックアップは、そのデバイスを利用している個人の意思にゆだねられていましたが、クラウドにファイルを置くことで、デバイスなどの故障時にもデータを喪失することはなくなり、管理者にとっても利用者にとっても非常に安心した環境を手に入れることができます。

クラウドにデータを置くのに、特別な作業は不要です。Office アプリケーションからは直接保存できますし、ドラッグ & ドロップでファイル操作も可能です。さらにエクスプローラーを利用したクラウド ストレージのファイル操作も可能なので、従来と同じ方法で操作するだけで、迷うことなく利用を進めることができます。
OneDrive for Business と同期をとるスマートフォンやタブレット用のアプリも提供されているので、さまざまなデバイスで利用することも簡単です。対応デバイスと対応プランをご利用であれば、Office Online で編集もできますから、Office アプリがなくても作業をすることができます。



Apps for Office、Apps for SharePoint

新しい Office や Office 365 には、その付加価値を高めるためのアプリを追加で利用することが可能です。Office アプリケーションや Office 365 の中から直接購入することができるストアも用意されています。
無料のアプリも用意されていますので、追加機能が必要な場合などには、まず各ストアを探してみてください。

Office 365 モバイル アプリケーション

Office 365 は、さまざまなデバイスに対応しています。Office アプリケーションは、フル機能の PC / Mac 用はもちろんのこと、iPhone や Android 携帯で利用できる Office Mobile をリリースしています。Office 365 のライセンスを持っていれば、ビジネス向けに Office Mobile を 5 デバイスまで利用することができます。タブレット デバイス用には、Office for iPad も提供しています。もちろん Windows タブレットでの利用も可能で、タブレット版の Office も 5 デバイスまで利用することができます。あらゆるデバイスでビジネスを進めるためのアプリケーションとライセンスを提供しているので、これからの時代に最適な選択肢です。

Office Mobile

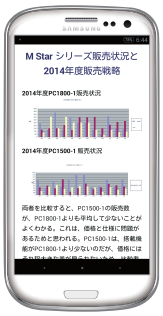
Office Mobile は、スマートフォン (Windows Phone、iPhone、Android 携帯) で利用可能な Office アプリケーション (Word、Excel、PowerPoint) です。閲覧だけではなく、スマートフォン上で編集も可能です。OneDrive for Business 上でファイルを管理すれば、他のデバイスと全く同じ情報を操作することになるので、便利なだけでなく情報の整理を飛躍的に簡単にします。

iPhone

OneNote

OneNote は、10 年以上前から提供しているデジタルノートです。「その時に使っているデバイスで簡単にノートがとれる」というコンセプトで提供されています。

Android



この OneNote は、ほとんどすべてのデバイス向けのアプリケーションが提供されており、OneDrive for Business のようなクラウド ストレージを利用すれば、どのデバイスで編集してもほぼリアルタイムで他のデバイスにも反映されます。これによって、複数のデバスを利用していても一つのノートを管理することができ、効率が飛躍的に向上します。この機能を利用してメンバー間でのノートの共有も便利です。

OneNote

Office for iPad

iPad をビジネスで利用するために必要であった Office アプリケーションを、iPad 用にも提供します。完璧なドキュメントの再現性と使い慣れた Office レイアウトをそのままに、Word、Excel、PowerPoint をご利用いただけます。iPad におけるタッチ操作でも快適に利用できるよう工夫されている上に、音声入力による文章作成や AirPlay® を使った TV 投影などの iOS の機能も利用できます。

iPad

- Microsoft Word
- Microsoft Excel
- Microsoft PowerPoint

その他のラインアップ

OneDrive for Business、Yammer、Skype for Business など、いろいろなデバイスで利用したいアプリケーションについては、それぞれのデバイス用のアプリケーションを用意していますので、ストレスなくご利用いただくことが可能です。Office 365 は、クラウド時代の基本ビジネス ツールを提供するのみならず、モバイル時代にふさわしいサービスを提供しています。

iPhone

- OneDrive for Business
- Skype for Business
- SharePoint
- Yammer
- Outlook Web App
- Admin アプリ

Android

- OneDrive for Business
- Skype for Business
- Yammer
- Outlook Web App
- Admin アプリ

Delve で実現する新しい情報の発見方法

Delve は Office 365 上で共有されているコンテンツから、ユーザーにとって関心の高そうなものを非常に見やすい形で抽出するため、今まで気づかなかった有益な情報を簡単に発見する事ができます。また、Office 365 上のユーザー同士のやり取りの分析に基づいて、誰が誰と業務上深いつながりを持っているかも簡単に知ることができます。

プラン別機能比較一覧

Office アプリケーション

ファミリー	Business			Enterprise				
プラン	B	BE	BP	ProPlus	K	E1	E3	E4
Office 365 ProPlus	×	OP	×	●	OP	OP	●	●
Office 365 Business	●	OP	●	×	OP	OP	×	×

Exchange Online

ファミリー	Business		Enterprise			
プラン	BE	BP	K	E1	E3	E4
Exchange Online ベースのメールボックスのアーカイブ	●	●	×	●	●	●
保持タグおよびアイテム保持ポリシー	●	●	●	●	●	●
Information Rights Management (IRM)	OP※1	OP※1	×	OP※1	●	●
インプレース保持	×	×	×	×	●	●
インプレース電子情報開示 (eDiscovery)	●	●	●	●	●	●
トランスポート ルール	●	●	●	●	●	●
データ損失防止	×	×	×	×	●	●
ジャーナル	●	●	●	●	●	●
スパム対策ポリシーのカスタマイズ	●※2	●※2	●※2	●	●	●
マルウェア対策ポリシーのカスタマイズ	●※2	●※2	●※2	●	●	●
検疫 - 管理者の管理	●※2	●※2	●※2	●	●	●
メール ヒント	●	●	●	●	●	●
受信トレイのルール	●	●	×	●	●	●
接続されているアカウント	●	●	●	●	●	●
非アクティブなメールボックス	OP※3	OP※3	OP※3	OP※3	●	●
配布グループ	●	●	●	●	●	●
ソーシャル ネットワークとの連絡先のリンク	●	●	●	●	●	●
リソース メールボックス	●	●	●	●	●	●
会議室の管理	●	●	●	●	●	●
予定表の共有	●	●	●	●	●	●
Office 365 管理センターのレポート	●	●	●	●	●	●
配信レポート	●※2	●※2	●※2	●	●	●
監査レポート	●※2	●※2	●※2	●	●	●
ユニファイド メッセージングのレポート	×	×	×	×	●	●
サイト メールボックス	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4	●※4
パブリック フォルダー	●	●	×	●	●	●
Exchange ActiveSync	●	●	●	●	●	●
ボイス メール	×	×	×	×	●	●
削除済みメールボックスの回復	●	●	●	●	●	●
削除済みアイテムの回復	●	●	●	●	●	●
Microsoft Office 365 管理センターへのアクセス	●	●	×	●	●	●
Exchange 管理センターへのアクセス	●※2	●※2	●※2	●	●	●
リモート Windows PowerShell へのアクセス	●	●	●	●	●	●
モバイル デバイスの ActiveSync ポリシー	●	●	●	●	●	●
使用状況レポート	●	●	●	●	●	●

※1 閲覧、編集などの権限設定をするには、オプションの Azure Rights Management が必要です。権限が設定されているデータを利用するには追加のオプションは不要です。

※2 Exchange 管理センター (EAC) 管理インターフェイスに直接アクセスすることによってのみアクセス可能です。

※3 EOA のサブスクリプションは、非アクティブなメールボックスの機能が必要なメールボックスごとに個別に購入できます。

※4 SharePoint Online を含むライセンスが必要です。

※5 フォルダー同期を使うには、Office 2013 (Standard または Professional エディション) または Office アプリケーションを含む Office 365 サブスクリプションが必要です。

※6 キオスク ユーザーには、OneDrive for Business は割り当てられません。他のユーザーの OneDrive for Business にアクセスすることはできます。

※7 各ファミリーで提供する Skype for Business Online は、基本的にプラン 2 の機能に相当します。

SharePoint Online

B : Business
BE : Business Essentials
BP : Business Premium
OP : オプション

ファミリー	Business		Enterprise			
プラン	BE	BP	K	E1	E3	E4
アクセス サービス	●	●	●	●	●	●
アプリ カタログ (SharePoint)	●	●	●	●	●	●
アプリの展開 : クラウドでホストされるアプリ	●	●	●	●	●	●
Active Directory の同期	●	●	●	●	●	●
セルフサービス サイト作成の向上	●	●	×	×	×	×
SharePoint 管理センター	●	●	●	●	●	●
Windows PowerShell のサポート	●	●	●	●	●	●
監査 & レポート (たとえばドキュメントの編集、ポリシーの編集、削除)	●	●	●	●	●	●
コンテンツ オーガナイザー	●	●	●	●	●	●
電子情報開示	×	×	×	×	●	●
外部共有 : 外部アクセス	●	●	●	●	●	●
外部共有 : ゲスト リンク	●	●	●	●	●	●
フォルダー同期	●※5	●	△※6	●※5	●	●
Information Rights Management (IRM)	OP※1	OP※1	×	OP※1	●	●
インプレース保持	●	●	●	●	●	●
Office アプリケーション	×	●	×	×	●	●
Office Online (作成 / 編集 / 表示)	●	●	●	●	●	●
アイテム保管ライブラリ	×	×	×	×	●	●
サイト メールボックス	●	●	×	●	●	●
アンケート調査	●	●	●	●	●	●
動画検索	×	×	×	×	●	●
ビジネス インテリジェンス センター	×	×	×	×	●	●
Excel Services	×	×	×	×	●	●
PowerView	×	×	×	×	●	●
PowerPivot	×	×	×	×	●	●
Visio Services	×	×	×	×	●	●
プロジェクト ワークスペース	●	●	●	●	●	●
パブリック Web サイト	●	●	●	●	●	●
ブログ	●	●	●	●	●	●
コミュニティ	●	●	×	●	●	●
ニュース フィード	●	●	×	●	●	●
ワン クリック共有	●	●	×	●	●	●
OneDrive for Business	●	●	△※6	●	●	●
Outlook で統合されたタスク	●	●	×	●	●	●
Wikis	●	●	●	●	●	●

Skype for Business Online (単体サービス比較※7)

プラン	プラン 1	プラン 2
プレゼンス、IM、Office light-up	●	●
パブリック サービス (Windows Live、AOL、Yahoo) との IM/P 相互運用	WL Only	WL Only
Skype IM/P 相互運用	●	●
グループ チャット	●	●
1 対 1 の音声会話	●	●
コンテンツ共有 (デスクトップ / アプリケーション、その他)		●
3 人以上のマルチ パーティー会議 (音声 / ビデオ / コンテンツ共有)		●
Skype for Business 会議内でのノート		●
Skype for Business Room Systems		●
Skype for Business 音声会議		●
サード パーティー音声会議ソリューションとの相互運用		●
Skype for Business 複数拠点のビデオ表示		●
Skype for Business モバイル クライアント	●	●
Skype for Business Web App		●

Office アプリケーション別比較

クラウド化した Office である Office 365 ProPlus / Business は、法人向けのボリューム ライセンス版 Office や PC プリインストール版 Office と比べて、ライセンス形態や管理、インストール可能なデバイスなど、さまざまな点で異なっています。以下の一覧表で、その違いをご確認ください。

	Office 365 ProPlus / Business	ボリューム ライセンス	PC プリインストール
ライセンス形態	非永続ライセンス (契約期間中だけ利用できるモデル)	永続ライセンス (買い取りモデル)	永続ライセンス (買い取りモデル)
バージョン	最上位・最新を利用	購入時のものを利用 / ダウン グレード可能	購入時のものを利用
バージョン	バージョンの統一が容易	バージョンの統一が比較的容易	デバイスごとに異なるバージョンになる
配信形式	ストリーミング形式	インストーラー形式	―
前バージョンとの共存	○	×	○
インストール時間	数分で利用可能	30 分以上	―
利用可能デバイス	PC/Mac 5 台、タブレット 5 台、スマートフォン 5 台	2 デバイス (1 台はモバイル向け)	デバイスを変えると利用できない
デバイスとの関係	デバイスの多様化に対応。Mac 版も利用可	PC に限定	インストールされているデバイスに限定
価格	初期投資が抑えられ、導入しやすい	計画的予算取りが必要	PC に含まれる
費用	費用予測が簡単で平準化されている	バージョンアップ時に大きなコストが発生	PC に含まれる
ライセンス管理	容易	複雑になる場合がある	PC 管理に依存
ライセンスの柔軟性	ユーザー数の増減に対応可能	ライセンス数は追加することのみ可能	他のデバイスに移管して使えない

ご購入方法

Office 365 は、ユーザー サブスクリプション ライセンス (USL) という、ご契約期間だけサービスをご利用いただける非永続ライセンスで提供されます。ご利用になるユーザーごとに USL が必要です。ご購入の方法として、次のような選択肢があります。

Web Direct
製品サイトよりオンラインで直接購入

マイクロソフトの Web サイトより、お客様ご自身によって、Office 365 をご購入していただく方法です。ユーザー様ご自身で管理も行っていただく場合に推奨する簡便な方法です。月額払い、年間一括前払いなどが選択できます。一度のお支払い金額が 24,250 円未満の場合は、クレジット カードのみでご決済いただきます。また、マイクロソフトの技術サポートをご利用いただけます。

Open ライセンス
販売代理店からのご購入

ユーザー様が、販売代理店から購入いただく方法で、紙による見積もりや請求書など、Web Direct では対応できないようなサービスが必要な場合に推奨しています。年間一括前払いのみ可能です。パートナーの提供するサポートのほかに、マイクロソフトの技術サポートをご利用いただけます。

Advisor パートナー
パートナーの指名によるオンラインでの直接購入

Office 365 のさまざまな管理や設計について専門のパートナーに委託したい場合は、この方法でご購入いただくことを推奨しています。パートナーの提供する独自のサポートのほかに、マイクロソフトの技術サポートをご利用いただけます。

独自サービスを付加しているパートナー
特別な販売パートナーからのご購入

Office 365 に独自のサービスを付加して、独自の商品名で販売しているパートナーからご購入いただく方法です。ご契約は、ご購入いただくパートナーと結んでいただきます。付加価値サービスが必要な場合に推奨しています。サポートは、当該パートナーから提供されます。

システム要件　お客様が現在お持ちの PC がシステム要件を満たしているかを、事前にご確認ください。

ソフトウェア要件	・Internet Explorer の現行バージョンまたは直前のバージョン、または Chrome、Firefox、Safari の最新リリース版。 ・メインストリーム サポートの対象となっている任意のバージョンの Microsoft Office。 延長サポートの対象となっている Office クライアントで接続することは推奨されませんが、Microsoft カスタマー サポートでは、できる限りのサポートをご提供します。また、Office 365 で提供される最新機能については、最新の Office アプリケーションを必要とする場合があります。
オペレーティング システム	Office 365 にはオペレーティング システムの要件はありませんが、お使いの Windows または Macintosh OS ソフトウェアが、Microsoft または Apple によってサ ポートされている必要があります。ただし、オペレーティング システムに依存することが明確となっている、またはオペレーティング システムによって動作が異なる、Office 365 の高度な設定オプション、機能、シナリオ、ツールがある場合があります。

このカタログの情報は、2015 年 4 月現在のものです。
各ファミリー、プランの機能やシステム要件はアップデートされます。最新情報は http://aka.ms/365j でご確認ください。

チェックリストで知る！ あなたの企業に眠る課題。

次のリストで、あなたの企業の課題をいま一度チェックしてみましょう。
「気付いてはいたが、なかなか対策を実施する機会がなかった」「指摘されてはじめて認識できた」
――そのような課題に、マイクロソフトの Office 365 がお応えします。詳しくは、該当のページをご覧ください。

check list

☐ Microsoft Office 2003 のサポート終了への対応 ☐ Office のバージョン管理をシンプルにしたい	☐ 常に最新版の Office を利用できるようにしたい	P4-5 Office 365 ProPlus Office 365 Business をご覧ください。
☐ メールボックスの容量が足りない ☐ 出先でメールをチェックしたい ☐ スパム処理に時間がかかっている ☐ 代表や問い合わせ先として利用するメール アドレスがほしい ☐ 法的証拠能力のあるアーカイブを取る必要がある	☐ 現在 Outlook をクライアントとして利用している ☐ 外出先でもスケジュール調整をしたい ☐ 会議や訪問のスケジュール調整を効率的にしたい ☐ 会議室や機材などのスケジュール管理を簡単に行いたい	P6-7 Exchange Online をご覧ください。
☐ 情報共有がうまくいかない ☐ 最新版資料がどれかわからなくなる ☐ 社外ビジネス パートナーとのファイル交換が面倒	☐ 社員に経営戦略を徹底したい ☐ プロジェクト的な業務が多くある ☐ バックアップを取るのに手間がかかっている	P8-9 SharePoint Online をご覧ください。
☐ 出張旅費を削減したい ☐ サテライト オフィスを作りたい	☐ 複数拠点のコミュニケーションを活発化させたい	P10-11 Skype for Business Online をご覧ください。
☐ エンタープライズ ソーシャルを導入したい	☐ 暗黙知や経験の共有を促進したい	P12-13 Yammer をご覧ください。
☐ 事故や災害に強い仕組みが必要 ☐ 在宅勤務を進めたい ☐ 直行直帰を実現したい ☐ IT 管理のトータル コストを削減したい	☐ いろいろなデバイスを利用したい ☐ BYOD を実施したい ☐ クラウド サービスの利用は不安 ☐ セキュリティを強化したい	P3 Office 365 の Business Value をご覧ください。

Web サイトにてご契約いただけます。
ご契約はもちろんのこと、製品の最新情報、無償トライアル、お得なキャンペーン情報をご用意しています。

http://aka.ms/365j

©2015 Microsoft Corporation. All rights reserved. ●本書は情報提供のみを目的としており、本書の内容について、Microsoft は、明示的あるいは非明示的ないかなる保証もいたしません。●本書に記載した情報は、将来予告なしに変更されることがあります。●本書を使用する場合のリスクまたは本書の使用による結果について、Microsoft はいかなる責務も負うものではありません。●本書に記載されている会社、組織、製品、人物、イベントの例は架空のものです。実在の会社、組織、製品、人物、またはイベントとの関連を示唆するものではありません。●適用する著作権法のすべてにお客様は準拠いただく必要があります。●著作権上の権利に限定されることなく、本書の一部または全部を無断で使用、複製することはできません。●その他記載されている、会社名、製品名、ロゴ等は、各社の登録商標または商標です。●本書の内容は、2015 年 4 月現在のものです。

製品に関するお問い合わせは、次のインフォメーションをご利用ください。■ インターネット ホームページ http://www.microsoft.com/ja-jp/ ■ マイクロソフト ボリューム ライセンス コール センター 0120-737-565（9:00～17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除きます）■ カスタマー インフォメーションセンター（法人向け）0120-41-6755 (9:00～17:30 土日祝日、弊社指定休業日を除きます）皆さまの IT 導入について、最適なご支援を行うためのご相談窓口です。Microsoft Office 365 に関する質問もお受けしております。※電話番号のおかけ間違いにご注意ください。

ご購入に関するお問い合わせは、マイクロソフト認定パートナーへ。■ マイクロソフト認定パートナー http://www.microsoft.com/ja-jp/partner/

Microsoft
日本マイクロソフト株式会社
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-3　品川グランドセントラルタワー

2351-NOC2